琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.39
2016. March

発行者　琉球病院事務部長
吉永　可公

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第102回 知的障がい・発達障がい児（者）に関するミニレクチャーと事例検討会

主任児童指導員　守山 公基

平成28年1月30日(土)に、知的障がい・発達障がい児（者）に関するミニレクチャーと事例検討会を開催しました。

午前の部は、当院の川上心理療法士より「発達に特性をもつこども達に関わる ～自閉症スペクトラムを中心に～」というテーマで、講義を行わせて頂きました。参加された方々のアンケートからは、「発達障がいを持つこどもへ対する関わり方がとても分かりやすく講話されていて、とても勉強になりました。特に当事者のこどもの抱えている生きづらさを理解し、様々な仮説を立てて、どう支援すればいいかを考えるというのが、私が行っている仕事でも必要不可欠なので、常日頃から考えながら支援を行っていきたいと感じました。」というお声を頂きました。皆様からの意見を総合しても、分かりやすく自閉症スペクトラムについて伝えることが出来たと考えます。

午後の部は、自閉症スペクトラム等の特性をお持ちの方への関わり方の工夫について、グループワークで児童に関する2事例を検討しました。運営スタッフで準備した創作の事例で、リアリティを持って取り組んで頂けるか不安も有りました。しかし、皆さん一生懸命意見を出し合って考えて下さり、熱を帯びたグループワークとなりました。参加された方々のアンケートからは、「グループで話し合うことで、他の方の意見や考えを知ることが出来て良かったです。」というお声を頂きました。運営スタッフ、参加者の皆様を含め、全員で知識や考えを共有出来たことが、とても有意義であったと考えます。

午前・午後を通してのご参加16名、午前のみのご参加10名の計26名の方にご参加頂きました。お忙しい中、ご参加ありがとうございました。今後とも内容を検討しつつ、年2回の研修会を継続していきたいと考えております。次回は、7月頃の予定です。是非、ご参加をよろしくお願い致します。

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き
進捗状況　本体工事：請負業者　電気設備　・・・・・・・　(株)九電工
機械設備　・・・・・・・　(株)三建設備工業
建築(第２期)工事・・・　(株)淺沼組
新病棟（第１期工事）完成　・・・・・・・・・　平成27年７月

教育・研修

●CVPPP(包括的暴力防止プログラム研修　)院内トレーナー養成(熟年者)コース
日　時：平成28年3月7日(月)～３月10日(木)　４日間
場　所：管理棟会議室・北棟１階ジム室
対象者：院内職員

地域医療連携室だより

琉球病院の地域医療連携室では、精神科ソーシャルワーカー（ＰＳＷ)がおり、外来受診や入院・退院の支援をしております。患者様やご家族の生活相談や悩みを聞き、一人ひとりのニーズに沿った支援を提供出来るよう、日々業務に取り組んでおります。行政機関や、他の医療機関との連携の窓口でもあり、医療と福祉との繋ぎ役も担っております。相談したい事があれば、お気軽に地域医療連携室にお問い合わせ下さい。

空床状況
2月26日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
10床	2床	8床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は160例になりました。平成28年1月のCLZ導入は4例でした。うち3例は他の病院からのご紹介例で入院中の患者様でした。CLZ治療前に暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成28年1月の治療実績は3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

2月18日～19日に宮古島市自殺対策事業と共催で思春期講演会及びグループワークを実施しました。

子どもたちに関わる養護教諭、保健師、障がい福祉課職員、スクールカウンセラー（以下SC）やスクールソーシャルワーカー（以下SSW）等、多くの方にご参加頂き、思春期の子どもたちの支援について意見交換し、対応について検討しました。翌日は宮古島市教育委員会のSC及びSSWの方々に対し、テーマごとに４つのグループに分かれ、グループスーパービジョンを行い、その後、宮古病院の小児科の先生方と事例検討会を行いました。子どもたちの支援に関係機関の連携は不可欠です。当院でも子どもの心の診療ネットワーク事業を通して、微力ながら地域の支援者のお手伝いができればと考えています。地域の医療機関や学校現場と協力し、支援体制を整えていきたいと思います。事業に関するお問い合わせは「こども心療科」ソーシャルワーカーへお願いします。

認知症医療

4月7日（木）より、もの忘れ予防教室（認知リハビリテーション）が外来で始まります。脳の機能を刺激する運動やゲーム、レクリエーションを行うことで、認知機能を高め認知症に成ることを予防しようというものです。

認知症予防において軽度認知症(MCI)の段階で予防しようという取り組みは、有酸素運動やデュアルタスク、脳トレ、シナプソロジー、ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）といった、体と頭を使うものから、食事のとり方や摂取する栄養素などいろいろな取り組みがあります。琉球病院のもの忘れ予防教室では、これら認知症予防に良いといわれている事をプログラム化し、秩序立てて実施していきます。認知リハビリテーションに参加することで、自宅で認知症予防に継続して取り組めるようになります。

脳は年齢に関係なく、幾つになっても訓練し鍛えることで認知力を向上させることが出来ます。脳細胞自体は、再生する事がない細胞ですから、3～4歳で脳が完成した後は歳とともに減少していくだけです。しかし、脳の機能は神経の結びつきによって成り立っています。脳細胞が減少し、神経線維の数が減少しても、脳を刺激し訓練することで神経線維の大きさが太くなり、神経間で情報を伝達するシナプスの数が増加します。1本１本の神経線維が伝達できる情報量が多くなることで、認知機能は向上します。認知機能は努力することで改善できます。

認知症は治療法が見つかっていない病気です。そして、これから増加していく病気と言われています。歳とともに病気になる確率は高くなっていきます。「最近物忘れが多くて」と心配な方は、是非ご相談ください。正常なもの忘れであれば安心して暮らせますし、軽度認知症となっており、認知症とならないための予防が必要であれば、予防のポイントを学んでいただけます。相談は地域連携室へお願いします。

重症心身障がい医療

ここ数年で、相談支援事業所の方々との繋がりが密になってきたと感じます。相談支援事業所の方々は、利用者さんを中心に、利用中、若しくは利用可能なサービスを組み立てて下さり、地域や施設等で安心した生活が送れるようにお手伝いして下さるコーディネーターさん的な役割と、私は考えております。当病棟の利用者の方々も、様々な相談支援事業所さんが担当して下さっています。当病棟の利用者は、その障がい特性から病棟内の生活で完結してしまう方々が多く、なかなかサービスを組み立てるといった部分にまで話が進むケースは稀です。それでも遠方の家族へ近隣事業所の方が介入して下さるケース、家族の全体的な状況を教えて下さるケース、参考になる社会資源をご紹介して下さるケースなど、我々病棟スタッフにとっては助けられる部分を支援して頂いているなと感じることが有ります。まだ制度開始から日が浅いため、我々も相談支援事業所さんとの関係性の取り方が十分でない面もあろうかと思いますが、今後も協力して利用者の方々の支援にあたれたらと考えます。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では1月現在、外来通院の患者様58名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

今年2月に、数年に渡って多職種チームで支援をしてきた、A氏が通常の訪問看護へ移行しました。A氏は入退院を繰り返し、なかなか病状が安定せず幻聴がひどくなり、不眠が続き、病状悪化となり、入院することを繰り返してきました。。現在は、定期的に外来受診ができ、作業所へ通所し、自宅の畑で季節毎の野菜を栽培して穏やかな生活をしています。A氏の明るい笑顔が見れることで、長い時間がかかっても日々の関わりを継続していくことが大切であると再確認をしました。今後も、訪問看護の対象者がしたいことに寄り添える訪問看護を目指して行きたいと思っています。

臨床研究部活動状況

『Clozapineによる無顆粒球症6例の報告』　医師　木田直也

琉球病院では治療抵抗性統合失調症に対して、2013年11月までに102症例にclozapine(以下CLZ)治療を行い、6例の無顆粒球症の発現を経験した。発現年齢は50代が3例、60代が3例あり、発現時期は6例ともCLZ開始後20週以内であった。総合病院での入院治療を行ったもの（転院群）が3例、当院で入院治療を継続したものが（非転院群）が3例であった。転院群はCLZを中止してから無顆粒球症発現までの日数が6日以下で急性の経過を辿り、感染症を合併し無顆粒球症の期間も長かった。非転院群は無顆粒球症発現から6日以下で回復した。CLZ中止後精神症状は緩やかに再燃してCLZ投与前の状態に戻る症例が多く、後療法は3例で高用量のolanzapineを使用した。当院での無顆粒球症の発現頻度が6%と高い要因として、CLZ患者群の年齢の高さ、県民の遺伝的特性などが関係している可能性がある。　**臨床精神薬理**　17　1189-1196.2014　**抄録**

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室（直通）ＴＥＬ　098－968－3550
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370